

むらかみじろうしょうてん 村上二郎商店



● 歴史

梅の歴史は古くからあって色々な説がありますが、飛鳥時代(592年~710年)

の頃には存在していたと考えられています。しかし、その頃は観賞用で、花見と

言ったら桜ではなく梅だったそうです。初めて梅干しが記録として登場したの

は、平安時代中期(1000年頃)で、薬として登場しました。

戦国時代になると梅干しの効果が高く評価されて、食中毒や傷の手当てに使わ

れ、栄養価も優れ、永く保存ができるからとても人気になり、栽培が増えていき

ました。それから梅干しが庶民にまで広がり、日々のおかずとして定着したのは

江戸時代(1063年~1868年)以降でした。

● ちいき かか 地域との関わり

おだわらじょう ちゅうしん せいりやく ひろ ほしじょうどうらん うめぼ くすり こうか たべ
小田原城を中心に勢力を広げた北条早雲が、梅干しの薬としての効果や、食べ
もの ふはい ふせ さよう ちゅうもく
物の腐敗を防ぐ作用に注目して、とても良いものだと言い、お城の周辺に梅の木
を植えて、梅干しづくりを盛んに行いました。毎日食べていたとも言われています。

また、えどじだい たびひと はこね こ さかみち きび たいへん
また、江戸時代の旅人たちにとって、箱根を越えることは坂道も厳しく大変でし
た。そこでさまざま こうか も うめぼ けいたい はこね おだわらじょうく めい
た。そこで様々な効果を持つ梅干しを携帯するようになり、箱根、小田原宿の名
ぶつ ぜんこく し
物として、全国に知られるようになりました。

● かんれん 関連するスポット

- すぎかねしょうてん (おだわらかまぼこ) ・ふる からこのちいき あい た もの
・杉兼商店 (小田原かまぼこ) ・古くからこの地域に愛されてきた食べ物です。
- そううんじ はこねまち ・ ・ ・ ほしじょうけ ひと た
・早雲寺 (箱根町) ・ ・ ・ 北条家の人も食べていたかもしれません！